

マグダレナ・ドブロミラ・レッティゴヴァー： チェコ料理及び文学への貢献

クジヴァーンコヴァー・アンナ

他のヨーロッパ文化と同じように、例えばフランスやイタリアなど、チェコの国も昔から食事好きである。様々な伝統的な料理法は何世代にも渡り受継がれていた為、現在にもチェコ人は祖先が食べたのと同じ食事を楽しめる。それはマグダレナ・ドブロミラ・レッティゴヴァーのおかげであるとも言える。

マグダレナ・ドブロミラ・レッティゴヴァー自身の事を吟味する前に、18世紀のチェコ土地の状態を吟味するのが必要である。

1620年における白山の戦い¹の後、チェコの土地はハプスブルク皇帝のドイツ化の政治に苦しんだ。チェコの言語は国家行政管理総局、文献、学校、カレル大学及び上流階級間で多かれ少なかれ根絶された。チェコの民族復興は18から19世紀の間にチェコの土地に行われた文化運動であり、その目的はチェコの言語、文化及び国民性を復興させ、結局チェコの国を独立させることであった。その活動における著名な人物の一人はマグダレナ・ドブロミラ・レッティゴヴァー、多くの短編小説、詩および演劇の女性著者であった。

レッティゴヴァーは1785年1月31日にウシェラディツェ市 (Všeradice) に生まれた。彼女の父親 (フランツ・アルトマン) は公務員であったので、家族は中流階級に属した。マグダレナの両親、特に母親は、非常に厳密であり、マグダレナはかなり厳しく育てられた。読書、執筆及び調理の基本的な知識以外、彼女は何も勉強しなく、全然通学しなかったが、それは当時に普通だった。驚いたことには、彼女の自叙伝によると、チェコ系であったのに子供のころにはチェコ語を全然勉強しなかった為、あまり上手ではなかったそうである。チェコ語は小作人の言語と考えられ、その結果としてマグダレナの中流階級の家族はチェコ語の代わりにドイツ語を話したそうである。レッティゴヴァーは以後の人生で多くのチェコ語の短編小説、詩および演劇の女性著者になったのに、婚前に適切なチェコ語を話し、書く事が殆どできなかったそうです。

レッティゴヴァーの父親はすぐ亡くなり、家族はつらい時を過ごした。従って、レッティゴヴァーは幼年期及び若い成年期に苦しみを甘受し、文学と家事 (特

に調理) に慰めを見いだした。

1808年には彼女が愛国心の強い弁護士イアン・ステイブラヴ・レッティグ²と結婚した。彼自身は熱心な作家であり、奥さんの文学に対する愛を支えてあげた。彼の指導の下で、レッティゴヴァーはチェコ語を学び、すぐ正しいチェコ語を話し、書く事ができるようになってきた。

レッティグは公務員でだったので、家族がよく引っ越した。重要なところの一つはウースティー・ナッド・オルリツィー市 (Ústí nad Orlicí) であった。レッティグ家は1818年にそこへ引越した。イアン・レッティグは市議会議員として勤め、レッティゴヴァーは若い女性に調理を教えた。二人ともは既にチェコ語の詩及び短編小説を書いていた。レッティゴヴァーの短編小説は大体単純で、ありふれたラブ・ストーリーであった。その物語は現在殆ど忘れられている。

但し、ウースティー・ナッド・オルリツィー市の滞在の間にマグダレナは彼女の最も有名な本『マグダレナ・レッティゴヴァーよりボヘミア及びモラビアの娘への家庭料理本、つまりお肉や精進料理についての論文』 (『Domáci kuchařka aneb pojednání o masitých a postních pokrmech pro dcerky české a moravské od M.Rettikovy』, 1826年) を書いた。この著書は多くのチェコ伝統調理法を含み、また料理装飾や食品保存、更には一般的な家庭管理などの助言まで含んでいる。

但し、その目的は調理法及び家庭管理を教えるというよりは、中流階級家族にチェコ語を再導入することであった。そのため調理本を書く、つまりチェコの人々の料理に対する関心深さを利用するのは非常に効果的な戦略であった。さらに、彼女が考えた通り、料理本は女性向けであった為、そのさらなる広がりを見せた。要するに、チェコの中流階級女性は調理や家庭管理などに対する正しいチェコ語の単語を学び、また自分の娘や友達にその知識を広げたとと言える。

1834年にリトミシュル市に引越し、そこで他のチェコ語作品『結婚の幸福を保障するための若い主婦への助言』 (『Mladá hospodyňka v domácnosti, jak sobě počínati má, aby své i manželovy spokojenosti došla』, 1840年)、マグダレナ・ドブロミラ・レッティゴ

ウァーより子牛肉の嫌い方々への子牛肉についての論文』(『Pojednání o telecím mase. Každému komu se přejídá, věnováno od Magdaleny Dobr. Rettigovy』, 1843年)、『コーヒー及び全ての甘い物』(『Kafíčko a vše co je sladkého』, 1843年)を著す;その上1826年の料理本は1845年までに3回再版され、ドイツ語版も出版される。

1845年8月5日に病死、1885年にリトミシュル市に彼女の功績をたたえ記念碑が建てられた。しかし、彼女の本当功績とはの記念物は彼女の調理本であると言え、今まで二十版以上が出版されている。

注

- i 白山の戦い(1620年11月8日)とはチェコ土地におけるハプスブルク軍勢力とチェコのプロテスタント貴族軍勢力との間の戦闘であった。簡単に言えば、チェコのプ

ロテスタント貴族に支えられたフリードリヒ五世とカトリックのフェルディナンド二世との間の王位継承権の戦いであった。この白山の戦いによりフリードリヒ五世の軍勢力が破壊され、勝利を得たフェルディナンド二世が必然的に厳格なカトリック教化及びドイツ化の政策を遂行し始め、反対者を強硬に迫害した。その結果、チェコのプロテスタント貴族や知識人が多く追放させられた。

- ii チェコ語には名字が性により違う。男性の名字は基本であり、女性は男性の名字に「オヴァー」を追加する。従って、イアン・スディプラヴの名字はレットィッグであり、マグダレナの名字はレットィゴヴァーになる。

参考文献

- JOHANIDES, J.: *Magdalena Dobromila Rettigová*, Rychnov n. Kněžnou: MÚ RNK, 1995
KAVKA, F.: *Bílá hora a české dějiny*, Praha: Garamond, 2003
RETTIGOVÁ, M.D.: *Domáci kuchařka*, Praha: Odeon, 1986

クジヴァーンコヴァー・アンナ/カレル大学 東アジア研究所 日本研究学科院生